



■ビオトープ・サロン 生物多様性保全と地域の自然・文化

今号は、会員の稲飯さんから、ご自身のふるさとを紹介していただきます。ふるさとに思いを馳せ、ふるさと再生を願い、新たな挑戦を試みようとする活動をはじめられました。

中山間地には、地域の自然とそこに暮らす人々が育んできたかけがえのない文化と里山の風景が残っています。しかし、近代化の流れの中で、産業の衰退、人口の減少、集落機能の崩壊などから、その維持が困難な状況です。そして、限界集落という大きな課題が立ちふさがる中、奮闘記のスタートです。 (編集局)

【田尾 (美馬市脇町の中山間地)】

記者：稲飯幸代 (会員)

地域の生活や文化を知ろうとすると、歴史や景観から得られる情報は多くあります。今回は田尾という地域の文化を歴史や景観から考えてみたいと思います。

「田尾」という言葉には、峠とか道といった意味があるようです。たいてい山地や山脈から伸びた陸版の岬みたいな地形をいうようです。脇町史によると、あちらこちらに「—タオ」という地名がでています。その中のひとつに美馬市脇町の西赤谷地区と東大谷地区にまたがった尾根の頂上に田尾があります。ここは、讃岐山脈から南側に張り出した標高560mの場所です。古くから麓の拝原村や岩倉村 (現在の脇町) から大瀧寺へ向かう参道として尾根が利用されていたようです。その昔は、この参道を赤線道と呼んでいました。赤線道の要所には石仏が置かれ、参拝者の道標となっていたようです。ここに集落が形成されたのは、約450年前です。きっかけは、尾張から稲田一族と共にやってきた祖父江家に移り住んでからとのこと。



今から40年前は、12軒の民家で50人以上が暮らす集落でした。頂上に水田は見られず、畑作中心の農業を営んでいました。畑では、春はムギ、夏は葉たばこ、秋はソバが栽培されていました。その頃は製茶、かやぶき屋根の葺き替え、餅つき、干し芋作りなど集落の人々が協同で作業する機会が多かったといいます。また、一方で水は貴重であったといいます。農業用の水は、各家で雨水を庭の一角に貯留して利用していました。貯留池は地下に埋没して作られ、水面は材で覆い、水の蒸発を防ぐ工夫がされていました。飲料水は1km離れた谷から天秤棒で担いで来ました。子ども達の日課でした。



現在は8軒の民家に16人が住み、平均年齢70歳以上というまさに限界(いや極限)集落です。山頂には赤線道の両側に開墾されて広がる畑、その中に点在する民家、畑の下にはクヌギやアカマツ、モチツツジが生育する里山があります。今日、里地里山と言えば田んぼを中心とした景観が多く見られます。しかしながら、田尾の里地里山の景観には田んぼを中心としたものではありません。民家の西や北側はスギや竹の防風林で囲われています。山頂は樹木を伐採して畑に転換しているため、ほぼ一年を通して強い風が吹き、夏の日照りと冬の寒さは格別だといいます。



尾根筋を走る赤線道を中心に広がる石垣のない畦畔の畑、その中に点在する防風林を備えた民家、畑より標高の低い場所に広がる里山と草地、さらに里山より標高の低い場所には樹林に隠れるようなわずかな田んぼ。450年間、この集落の人々が自然を攪乱し、土地の復元力とのバランスの上に管理してきた景観です。田んぼを中心としない里地里山の景観が、田尾の文化であるかもしれません。そして、現在も残る貯留池や屋敷林などこの地域の人々が共有し継続してきた水を得、風を防ぐ工夫が田尾の文化でしょう。しかしながら、それは同時に生活の課題であったことが景観から推測できます。

■ビオトープ・セミナー 資格試験に挑戦して基礎知識を修得しよう!

ビオトープ管理士資格試験過去問題 出展：(財)日本生態系協会主催「ビオトープ管理士セミナー」のテキストより
無断転載禁止：本紙は公益財団法人日本生態系協会の許可を得て転載しています。(編集局)

【生態学：正答と解説は次号で紹介】

問042： ニッチ (Niche) とは何か、1～5のなかから選びなさい。

1. 食性 2. 生態的地位 3. 繁殖地 4. 採餌地 5. ねぐら

■前号041の解説

①現地を利用している野生生物の整理・生態、生活史を把握した上で、工事の進め方、工事の時期を設定する。②工事を一気に進めたりせず、野生生物の利用状況に対し、なるべく影響を及ぼさないよう工事区域・工事工程を設定する。③掘削土や伐採した植物に含まれる野生生物の這い出しを考慮する。④表土を利用する場合は、仮置き場の時期に応じて仮置き場の条件を配慮する。⑤工事中の濁水の流出を防止(軽減)する対策(沈砂池等)を講じる。⑥現地の生態系に悪影響を及ぼす外来種については、適切な時期に駆除する。⑦移動性の低い野生生物に対しては、保護・捕獲を行い、現地での種絶滅が起きないように対策を講じる。

※2級はどなたでも受験でき、四国の受験会場は「徳島大学工学部」です。自然環境の保全に関わる方には、是非とも取得していただきたい資格です。詳しくは、<http://www.ecosys.or.jp/eco-japan/activity/biokan/index.htm>

■ビオトープ・サロン 熱血オジサン奮闘記! ~ブログビオトープ気延の里~

寄稿：石井町のわんぱくおじさん(ビオトープ気延の里)

【~空き屋?満室?~ 5月18日】



5月18日 晴れ 今日例によって石井小学校5年生による田植えが行われました。今年はクラス多く田んぼを四分割し、いっせいに始めました。ところで去年の秋に「スズメのお宿」と思い竹で作った巣箱、なぜか今年はダメみたい。何でかな? (写真上)

で、下の写真は日本ミツバチの巣箱。今年分蜂したものをに入れてもらいましたが、こちらはどうやら定住しそう。来年の秋にはおいしい蜂蜜が・・・!

ビオトープ・サロン お便りコーナー

読者からのお便り紹介です。ありがとうございました。ちなみにYさんが続いています但別人です。ニュースへの感想や意見、また、情報や寄稿など、お気軽にご参加ください。(編集局)

【Yさん】

とっても身近で参考になるお話を、興味深く また楽しませていただきました。いつも話題提供ありがとうございます。

【Yさん】

石井小学校の日本生態系協会賞、ご入賞おめでとうございます。ご協力された方々のご努力の賜物ですね。いつもお便り頂くのを楽しみにしていますが、今後も益々楽しみにしています。なかなか参ることが出来なくて申し訳ございません。影ながら応援しております。

【Yさん】

ビオトープ・ニュース(038)を読んで、大変参考になりました。

- ・ナルトサワギク：鳴門市に住むメール仲間から、自生しているのを見つけたという便りがありました。
- ・ボタンウキクサ：旧吉野川の河口付近に大量発生している「ボタンウキクサ」を一・二年前に見かけましたが、現在は痕跡もないようです。ただ、観賞魚売り場には商品として鉢の中に浮いています。
- ・ブラックバス：去年の秋、二十歳前後の若者が近くの掘り割りブラックバスを釣り上げるのを偶然目撃しました。彼はケイタイで写真をとり送信するのだ、と言っていました。47cmの大物でした。松茂町豊岡のイモ畑のすぐ横のカヤ(茅)が群生している堀の中でした。

【Aさん】

いつもニュースを、どうもありがとうございます。先日、福留脩文さんをお招きして、「正法寺川」を最上流から最下流まで見ていただき、その後、意見交換会をいたしました。さすがに、日本の川の仕事人3傑のおひとりであることを改めて実感いたしました。実際に会ってお話を伺うと、その内容が良くわかります。また、「川の外科医が行く」を読むと、近自然工法に関わった日々を懐かしく思い出しました。

やはり、技術は、現場で使ってこそ意義があります。そうありたいと強く思ったことでした。お礼方々

■編集後記

ビオトープに関するお役立ち情報はもとより、皆様の活動やお仕事、日常生活を通じて見たり感じたりしたこと、身近な自然の春夏秋冬や喜怒哀楽のご寄稿をお待ちしております。ふるってご参加ください! 編集局

【E-mail: kanv@nifty.com URL: <http://biotopetokushima.yu-yake.com>】